

# 福井県高P連 会報

発行人 福井県高等学校PTA連合会  
 (福井県生活学習館「ユニーアイふくい」内) 入 場 理  
 URL: <http://koupren-fukui.gr.jp/>



第44回近畿高等学校総合文化祭 総合開会行事

## 福井県高P連研究大会

令和六年度の県高P連研究大会が十一月二日(土)の午後からアオッサ八階県民ホールで二六名が参加して開催されました。開会式では、県高P連会長の入場理氏が

「未来を担う大切な存在である私たちの子ども」の健全な成長を支えるために、家庭・学校・地域が一体となって協力し合うことはますます重要になっていきます。教育を取り巻く環境が急速に変化している中、学校活動のサポートだけでなく、学校と地域社会をつなぐ架け橋となるよう、情報を共有し、意見を交換し、学びあうPTAでありたいと願っています。子どもたちの未来を共に築いていきましょう。」と挨拶されました。



入場理高P連会長

続いて、福井県教育庁の山本寛副部長(高校教育)は祝辞の中で、

近畿総合文化祭福井大会の紹介の後、「本県では子ども一人ひとりの個性を『引き出す教育』や学びを『楽しむ教育』を進め、生涯にわたって主体的に学び続ける力を育んできました。現在、教育政策の根幹を成す『教育振興基本計画』の改定を進めています。『子どもが主役』の福井の教育の



山本寛副部長(高校教育)

継続とともに、個別最適な学び、ライフデザイン教育にも一層取り組み、主体的に自らや地域の将来を考え、行動する力を育成したいと考えています。今後ともよろしくお願いいたしますと挨拶されました。

また、福井県高等学校校長協会会長の山崎良成藤島高校校長は、全国育樹祭に触れ、様々な場面で生徒たちが頑張っていることが誇らしいと話されました。



山崎良成校長協会会長

また、「高校教育の重要な役割に『進路決定』がありますが、興味や関心を探すこと、持たせることは、生徒自らが能動的に求めていく必要があります。そのためには学校の『外の学び』を活性化することが重要であり、『外の学び』を担う、家庭教育・社会教育についての議論を、PTAとともに深めていくべきと考えています。」と祝辞で話されました。

開会式の後、「念いを伝える」と題して、書家・プレゼンテーションクリエーターの前田謙利氏よりご講演をいただきました。

「これまでの経験や常識、方法論があっという間に使い物にならなくなるほど、私たちを取り巻く環境は大きく且つ早く変化している。そんな中、子どもたちが歩んでいく未来に向け必要なスキルが自分の念いを伝えるスキル



講演講師 前田謙利氏

である。進路決定の際、ペーパー試験での合否判定から、自身がこれまで何を感じ、何を学び、何を感ず、そこからどのような自己形成、アクションにつながっていくのかを伝える重要性が高まっている。ビジネスの世界では、兼業・副業が当たり前になり、益々セルフブランディング力を高め、自己を伝えることが求められている。」という、「念いを伝える」スキルについての講演でした。「今すぐ役立つ話でした」「早速会社で共有したい」「目からうろこ」など、講演後に多くの方が話されていて、私が、私自身も思い当たることが多く、今後にも少しでも生かせるように努力したいと思いました。大変有意義な講演でした。



**実践発表**

福井県立科学技術高等学校PTA

「科学技術高等学校のPTA活動について」

PTA会長の生島直樹さんに発表をしていただきました。  
 創立一〇年を超える歴史と伝統を誇る高校の概要と学科紹介、部活動・資格検定の紹介後に、PTA活動についての発表が行われました。  
 活動の中心はPTA実行委員会、役員と学級委員で構成され、前年度正副会長は顧問や参与として関与している点と、学級委員四十八名中八割強が女性委員であることが印象的でした。  
 総務広報委員会企画編集の広報紙  
 「水仙」は広報紙コンクールで毎年のように上位入賞されますが、完成までに委員会を十回以上開催されていることに感心しました。生徒指導委員会の「登校指導」「プラントナーの植替え」や、行事委員会中心で、委員会の枠を外しての「学校祭バザー」「競歩大会」への協力など「子どもたちの笑顔」のために、保護者も笑顔で積極的に活動している様子が伺える発表でした。

福井県立若狭高等学校PTA

「若狭高校のPTA活動と地域と協働で生徒を育てる」

PTA会長の木村稯さんに発表をしていただきました。  
 若狭高校は、明治三十年福井県小浜尋常小学校として開校、平成二十九年に創立一二〇年を迎えた県内屈指の伝統校です。また、SSHの指定校としての活動や、海洋科学科を中心とする先進的な取り組みは全国的にも有名です。  
 若狭高校PTAは、このような活動を行う学校、生徒に対し、会長、副会長五名、監査委員三名、委員長三名、地区委員二十五名を中心に様々なサポートを積極的に行っているという印象を受けました。「楽しく学校生活を送れるように」「行事への支援を行う健全育成委員会」「学校の出来事をPTA会員に分かりやすく伝える」ための広報紙を作成する広報委員会、「PTA会員に進路について考えてもらう機会を提供する」ために活動を行っている進路対策委員会があります。委員会がそれぞれ目的を決めて取り組んでいる姿勢や活動内容に感銘を受けました。



科学技術高等学校



若狭高等学校

（武生高校PTA会長 川端武志）



# 北信越高P連長野大会

## 「歴史の町で未来を描く」 新たな時代をどう生きるか」

七月五日(金)、六日(土)の二日間、令和六年度北信越地区高等学校PTA連合会研究大会長野大会が、北信越各県から九〇一名が集い、本県からも一一一名が参加して、ホクト文化ホールにて開催されました。

一日目の開会式では松本正一北信越地区高P連会長の挨拶の後、表彰状贈呈が行われ、PTA活動に功績のあった三十名が表彰され本県からは七名が受賞されました。その後、長野県教育委員会武田育夫教育長及び荻原健司長野市長から祝辞をいただきました。



荻原健司市長祝辞



開会式

### 福井県の栄えある受賞者

- 前田 武彦氏 県高P連副会長 武生商工高校PTA会長
- 梅田 理香氏 県高P連理事 金津高校PTA会長
- 生島 直樹氏 県高P連理事 科学技術PTA会長
- 宮本 理氏 県高P連理事 武生高校PTA会長
- 岩崎 正洋氏 県高P連理事 若狭高校PTA会長
- 高村 昌裕氏 県高P連監事 高志高校PTA会長
- 矢野みどり氏 県高P連監事 敦賀比高校父母と教師の会会長 (役職は令和五年度時)



受賞者の皆さん

その後の歓迎アトラクションでは、長野西高等学校バトン班による統一感のある動きが参加者を魅了しました。その後、全体会が行われ、各県一校が以下の演題で発表されました。

- 福井県立藤島高等学校
- 藤島高校PTAの問題意識と活動
- 石川県立金沢二水高等学校
- 「金沢二水高校とPTA活動」
- 富山県立富山工業高等学校
- 「学校教育とPTA
- 「生徒と保護者をつなぐPTA活動」
- 新潟県立三条商業高等学校
- 「三条商業高等学校PTA活動の取組」
- 長野県諏訪清陵高等学校・附属中学校
- 「高校教育とPTA」



表彰式

福井県代表の藤島高校の発表では、PTA活動の看板にもなっている広報紙「PTA通信」が印象的で、保護



実践発表

者・教職員からも原稿を募り、毎年七十ページ以上の冊子を作成、次年度新入生の保護者にも配布するなど学校生活とPTA活動の両方を広く伝えるツールとなり、参加者からも注目されて

いました。紙上発表の丸岡高校、武生東高校、敦賀比高校の発表内容も大変興味深く、貴重な時間となりました。一日目の夜に開かれた教育懇談会では各県のPTAの方々と意見交換が活発に行われ、各県、各校の特色や活動を知ることができました。

大会二日目は、長野県が誇る五輪メダリスト小平奈緒氏による記念講演が、「知るを愉しむ」という演題で行われました。幼少期からの生い立ちやスケートに対する価値観、挫折から得たことなどを交えた実体験を語られました。様々な場面での気持ちや考え方がどのように変化し、どのように役立ったかが伝わり、心に響く感動的な内容でした。



次年度開催県挨拶

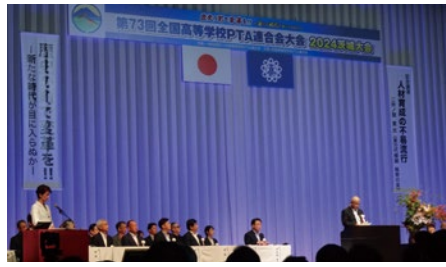
閉会式では次年度開催の入場理福井県高P連会長の挨拶があり、再会を誓い閉会しました。

(坂井高校PTA会長 安久武志)

# 全国高P連茨城大会

## 「歴史の街で変革を!!」 新たな時代が目に入らぬか

八月二十二日(木)、二十三日(金)に第七十三回全国高等学校PTA連合大会茨城大会が茨城県水戸市「アダストリアみとアリーナ」他四会場にて、全国から五六六九名、福井県からは八十八名が集い、オンライン視聴では全国から二五九校、福井県からは一校が参加のもと盛大に開催されました。



開会式

たな時代のPTA活動を目指し、連携を一層密にした活動体制の強化に取り組もう」と呼びかけられ開催しました。大会一日目は、五分科会ごとに地元高校生によるアトラクションでスタート、その後、講演会やグループトークが行われました。分科会のテーマは、①「教育の過去・現在・未来」②「保護者・教師・生徒が抱える問題と解決法」

今大会は、

黄門様のふるさとで、「予測困難な社会情勢の中においても、すべての子どもたちが自らの居場所を得て、自己有用感を高め持てる力を十分発揮できるように新たな

③「新・生きる力と家族の絆」④「みんなで考えよう、これからのPTA」⑤「これからのコミュニティ・スクール」があり、私は、  
②「保護者・教師・生徒が抱える問題と解決法」をテーマとする第二分科会に参加しました。



アトラクション

前半は、講師の司馬理英子先生がADHD（注意欠如・多動症）や発達障害に触れられ、家庭や学校において子どもたちと接するときの上手なほめ方、叱り方を紹介、「ジャイアント」と「のび太型」に分類して説明され、参加者は理解を深めました。多くの質問が飛び交い、特に自分の子どもと同じ悩みを抱える方が情報を共有することができた時間だったように思います。

後半は、弁護士の有馬慧先生から、十八歳成人について、保護者・教師・生徒が留意すべき点を、「十八歳になったら気をつけること」として講演されました。いじめに対して、加害者の立場と被害者の立場から親としての向き合い方の助言や、SNS等による消費トラブルなど関心の高まる内容でした。大会二日目は、全校生徒一六〇名という小規模ながら部員八十三名という大洗高校のマーチングバンド部による圧巻のパフォーマンスで会場が盛り上

がったところで開会式・表彰式がありました。福井県からは、大野高校が優良PTA文部科学大臣表彰を受賞されたほか、会長表彰個人の部に二名、団体の部二校、役員表彰に一名が表彰されました。

## おめでとうございます

優良PTA文部科学大臣表彰

大野高等学校PTA

全国大会会長表彰

個人

出口 岳彦 前高P連副会長

梶 健太郎 前高P連副会長

団体

福井商業高等学校PTA

敦賀高等学校PTA

役員表彰

後藤 正邦 前高P連会長



県内受賞者の皆さん

記念講演では、講師の「第七十二代横綱・稀勢の里」二所ノ関寛氏が「人材育成の不易流」と題して講演されました。数々の試練を乗り越えての初優勝、横綱昇進、大ケガを負いながら奇跡の逆

第二分科会



大会風景

## 次回三重大会

八月二十一日(木)・二十二日(金)  
津市産業スポーツセンター

(美方高校PTA会長 杉浦康造)



# 県教育長と高P連との懇談会

県教育長と高P連との懇談会が十月十七日(木)に県庁大会議室にて開かれしました。県教育委員会からは、藤丸教育長、松下学校教育監、山本副部長(高校教育)、廣瀬教育政策課長、遠藤教職員課長、松枝保健体育課長の六名が、当連合会からは、入場会長以下十七名が参加しました。

最初に入場会長から「子どもたちを取り巻く環境はめまぐるしく変化している。このような時代だからこそ、子どもたちの未来を真剣に考え、教育について深く議論していく必要がある。本日は、福井の教育の今後やPTAの在り方などについて意見交換や相互理解を図り、今後に生かしていきたいと考えています。」と挨拶がありました。

続いて藤丸教育長から「福井県は学校と家庭と地域が一緒に子どもたちを育てていくということを大事にしてきました。本日は保護者の代表として学校に携わっている皆様と意見交換をしながら、本県教育がさらに良くなるようにつなげていきたいと考えています。」と挨拶がありました。

この後、四つの話題について意見交換がありました。



藤丸教育長挨拶

換がありました。

## 福井県の教育全般について

入場会長から「進路選択について、より早く、より深く具現化ができる支援体制について」、「地域を担う人材育成について」、「学校の魅力化・特色化に対する県教委の支援体制について」などの話題提供がありました。

県教委からはキャリア教育として、「ふくいの産業」や「ふるさと先生」、「キャリア教育セミナー」などの紹介と、地域を担う人材育成のために企業や自治体が学校の教育活動に参画することを支援し、相互の魅力向上を図っていることの説明がありました。

また、地域の学校、職業系高校は地域の人材育成の核であり、できるだけ残すために地元自治体との協力や中学校へのアプローチが重要であるとの認識も示されました。

## 教育環境の整備状況について

矢田副会長から「体育館の空調整備について」、「公共交通機関の廃線・減便対策について」などの話題提供がありました。また、児玉武生商工PTA会長からは「しきぶ駅の開業遅れへの対応について」、「代替交通手段の確保について」などの強い要望があり、さらに梶敦賀工業PTA会長や川口理事、平野坂井PTA副会長からも「通学手

段の確保について」などの要望が出されました。

これに対し、県教委から体育館の空調や寮の整備計画についての説明がありました。特に体育館の空調については、今年度から着手し、早いところでは、令和八年度から稼働予定であるという説明がありました。

また、「しきぶ駅」については、県教委から「学校への調査から現状は認識しています。さらに校長から意見を伺い、対応を考えていきます。」と説明がありました。

## ICTに関する課題や今後の取り組みについて

八木副会長から「ICT教育や探究活動について」、「タブレット端末の活用について」などの話題提供がありました。

県教委からは、各校の探究活動の事例紹介があり、その支援のための「高校生探究フォーラム」や「地域デザイン講座」を実施していること、「ふくい探究学習サポート企業」を募り、企業と生徒のマッチングに力を入れていることの説明がありました。

また、タブレット端末を活用した授業の事例紹介やオンライン授業の現状についても説明がありました。なお、今後訪れるタブレット端末の更新については、PTAから保護者の負担軽減のお願いをしました。

## その他(働き方改革など)

大熊副会長から「先生が働きやすい環境整備・業務改善について」、「熱中

症対策について」などの要望がありました。

県教委からは「学校業務改善方針」に基づき、意識改革や外部人材の活用、行事の精選に取り組んだ結果、状況は大きく改善してきたとの説明がありました。今年度からは「ふくい教育ミライ会議」を実施し、これまで以上に先生方の声を業務改善に取り入れていく方針であることも説明がありました。また、熱中症対策については、「暑さ指数」にも注視し、学校や高体連などと連携し、生徒の安全面に最大限に配慮した取り組みを行っていくとの説明がありました。



児玉武生商工PTA会長、高橋鯖江PTA会長、田中大野PTA会長からも「熱中症に対する柔軟な対応」、「公共交通機関の改善」、「休校措置に関する要望」が出され、県教委からは「今後も学校やPTAと情報共有を行い、生徒の教育環境の充実に努めていきたい。」との回答がありました。

例年以上に盛況な懇談会となり、これからもPTAと県教委の情報共有、対話が必要不可欠と感じました。

# ちよと ぼじやましくす!

Introduction

## 高志高等学校

異常なほどの残暑に見舞われていた中、十月九日に高志高校におじゃましました。夕方、家路につく生徒、部活動へ移動する生徒、生徒数が中高合わせて千名を超えるにあつて賑やかな雰囲気のある学校でした。

高志高校は、昭和二十三年に設置された福井県立福井第二高等学校が前身で、平成二十六年に高志中学校が設置され県内唯一の併設型中高一貫校です。校訓は「克己・創造・敬愛」教育方針を「国際社会および地域社会のリーダーとして貢献できる、知徳体の調和のとれた人材の育成」として、文部科学省から平成二十六年からスーパースクールハイスクール・平成十五年からはスーパースカイエンスハイスクールに指定され、探究と創造の学びで社会をつくる・変える力を育てられています。学科は一般的な普通科ではなく、「探究創造科」として一括募集し、二年次に理数創造科・人文創造科に分かれるそうです。

興味深かったのは、生徒の自主性を重んじ、校外の行政や民間企業との交流・各種コンテストへの積極的な参画をされていることとです。また修学旅行ではなく「選択型研修旅行」として国内外に分かれ、現地高校・大学訪問やホームステイ、文化施設や研究施設訪問があることです。本年は約八割の生徒が海外に参加されると伺い、生徒・保護者ともに貴重な機会となると感じました。

P T Aは会長、副会長、会計、幹事と各クラス一名の学級委員の総勢三十八名で構成されています。三常設委員会があり、総務委員会では主にP T Aだよりの取材と発行を行っています。P T Aだよりの行事が開催されることに学校のHPで随時記事を公開し、年度末に紙媒体で発刊しています。進路委員会では進路研修会「進路についての意見交換会」の企画・運営を行っています。この研修会は今年度で三十一回目を数え、受験を終えたばかりの前年度の卒業生やその保護者を招いて卒業生や保護者の体験談を聞いたり、意見交換を行ったりしています。生の声が聞ける貴重な機会で、高校生のみならず中学校の保護者も多数参加しています。



校歌句碑

また、「みどり葉」を冠した同窓会「みどり葉会」も積極的に活動されており、卒業生も含めたK O S H I i s mを感じた取材でした。



正門

また、校歌の冒頭にうたわれている「みどり葉」を冠した同窓会「みどり葉会」も積極的に活動されており、卒業生も含めたK O S H I i s mを感じた取材でした。

(大野高校P T A会長 田中宏直)

Introduction

## 大野高等学校

ようやく秋らしさを感じるようになってきた十月八日、私の母校でもある大野高校におじゃましました。当時は越前大野城の麓にあり、移転開校してからは初めての訪問です。現在、三学年十二クラスの一三三九名と、私が在籍していた頃から比べると約半数になっていることに少子化を実感しました。

同校は、明治三十八年に福井県立大野中学校として創立され、幕末の大野藩校「明倫館」から始まり、これまで多くの卒業生を輩出、令和七年度には創立一二〇年を向かえる歴史と伝統ある学校で、大高(だいこう)という呼び名で地域の皆さんに愛されてきました。

大高では校訓は明記されていませんが、人としての生きる道を明らかにし、「進取の気性」を育てた明倫の心が大高の学びの原点であるとのことでした。

今、この精神を受継ぎ、D・K o m p a s「大高という名のコンパス(羅針盤)」というキャッチフレーズをつけた新たな探究活動に取り組んでいます。大高は生徒たちが悩んだとき、道に迷いそうになったときの「K o m p a s」でありたいの思いが込められているそうです。

P T A組織は会長、副会長三名、会計監査三名、学級委員二十四名の総勢三十一名で構成され、三常任委員会があります。進路委員会では、年三回のガイダンスを企画運営し、総務委員会では、

この企画は、調査広報委員が直接「ちよとにおじゃま」し、伺った話の中から委員独自の感性でこれらと思われるものを紹介していくものです。

P T A誌「談林」を年三回発行し、健全育成委員会では、年二回程度の交通安全校外指導を行っているそうです。

同校の近年の大きな動きとして、創立一二〇周年に向けた制服の改定、新制服の発表があります。男子は初めての改定、女子は七十年ぶりの改定で、新たな制服はブレザーとスラックス又はスカートに組み合わせになります。この改定にあたっては、令和五年度からP T A、生徒会等が協議し、生徒と保護者を対象としたアンケート結果を踏まえ方向性を決め、その後、生徒会を中心にデザインを絞り、市内中学校の生徒の意向調査も実施し、決定したそうです。

P T A、生徒会等が対等に協議を重ね、改定方針が決定された後は、生徒たちを信頼し任せる。まさに、保護者と学校がK o m p a sとして生徒たちをしつかりと導いている校風を感じました。



新しい制服

(高志高校P T A会長 山腰文仁)

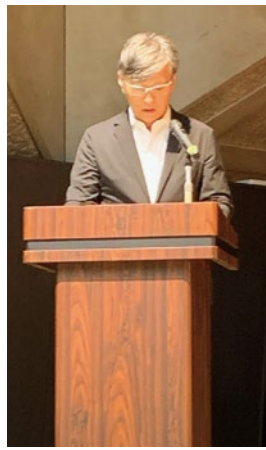




# キャリアガイダンス研修会

県高等学校PTA連合会主催のキャリアガイダンス研修会が九月七日(福井県生活学習館多目的ホールにおいて、一三四名の方々の参加を得て開催されました。

初めに県高P連の入場理会長が、「高校卒業後の進路が多様化してきた現代社会において、子どもたちは将来どのような力が求められているのか、また、そのために保護者が果たすべき役割は何なのかについて学ぶ良い機会としていただきたい。」と挨拶しました。



入場理高P連会長挨拶

続いて、ベネッセ教育総合研究所主席研究員の山下真司氏を講師に「これからの社会を生きる我が子の進路選択にどう向き合っていくか」と題する講演が行われました。

山下氏は、進路指導・キャリア教育の分野で、高校生や高校教員向けの多くの講演や研修会の講師をされており、その豊富な経験を基にした今回の講演は大変得るものが多いと感じました。

「なぜ勉強するのか」から始まり、私たち保護者の高校時代との違い、これ

からの「学力とは」などの前半部分は分かりやすく、講演に引き込まれていました。その後の、「現在、高校で取り組んでいる『探究活動』について」、「探究とは何か」、「なぜ必要か」については、頷くばかりでメモを取ることも



山下真司氏講演



山下氏と入場会長

忘れるほどでした。中身の濃い九十分を終えて、子どもとの接し方のヒントを頂いたように思います。わが子ではあるけれども、一人の人間として接し、「親」であると同時に「自立支援者」として子どもと

向き合っていきたいとの思いを強くした講演でした。講演後、質疑応答、入場理会長の謝辞があり閉会となりました。(足羽高校PTA会長 山田真也)

## インフォメーション

### 令和七年度 北信越地区高P連研究大会 福井大会

北信越研究大会が来年度福井県で開催されます。

皆様のご協力をよろしくお願います。

#### 経過報告

- 九月七日(土) 生活学習館 福井大会第一回実行委員会
- 十月八日(火) 生活学習館 福井大会第一回正副専門部会長会

#### 開催要項

〔期 日〕 令和七年七月十一日(金)、十二日(土)

#### 〔会 場〕

- 。福井フェニックス・プラザ
- 。コートヤード・バイ・マリオット
- 。ホテルフジタ福井

#### 〔主 催〕

北信越地区高等学校PTA連合会

#### 〔共 催〕

全国高等学校PTA連合会

〔主 管〕 福井県高等学校PTA連合会

#### 〔後 援〕

- 福井県教育委員会
- 福井市教育委員会
- 福井県高等学校長協会

#### 〔参加者〕

北信越地区PTA会員約千名

### 今後の行事予定

〔日時〕 令和七年一月二十五日(土)

〔場所〕 生活学習館

- ◆ 第三回理事会 午前十時半
- ◆ 各校PTA会長・担当者合同会議 午後一時半
- ◆ 北信越地区研究大会福井大会 午後三時
- 。 拡大実行委員会 午後四時
- ◆ PTA会長会議 午後四時

### 高校生総合保障制度 事故受付状況と保険金請求手続きについて

二〇二四年も終わりに近づき、高校生総合保障制度につきましても、数多くのご請求やお問い合わせが保護者の皆さまから当事務局へ寄せられております。今回は昨年度の事故受付状況と保険金請求手続きについてご案内いたします。

#### 一、事故受付状況について

二〇二三年四月～二〇二四年三月までの直近一年間の事故受付状況ですが、事故累計で四一四件お支払い致しました。内訳として、支払件数が多いのは通院補償二〇五件、入院補償五八件となっております。事故の内容で、最も多いのは日常生活中の事故、次いでスポーツ中の事故となっており、個人賠償での支払いも全体の七・五％ありました。

この保障制度では全プラン、学校から貸与されたタブレットの破損による法律上の損害賠償責任も補償対象となっておりますので、自転車通学中に転倒し、タブレットを破損してしまった場合などに対応しています。

最後に、**福井県高校生総合保障制度は全プラン福井県自転車条例に対応しておりますので**、当制度の加入をご検討頂ければ幸いです。

#### 二、保険金の請求手続きについて

ケガ・病氣・賠償事故の場合、下記連絡先(0120-3001399)(通話料無料)：二四時間受付)まで、お手元に加算者証をご用意の上、ご連絡ください。必要書類等につきましても案内いたします。

#### ○中途加入に関するお問合せ先

高校生総合保障制度事務局  
株式会社アイル保険センター

〒910-0003

福井県福井市松本4丁目6番15号

TEL: 0776-12313419

(受付時間：9時～18時 土、日、祝日、年末年始除く)

保護者の皆様へ 2024年度版

## 福井県高等学校PTA連合会

適用される割引率※

15% 割引

# 高校生総合保障制度

## ご案内

[こども総合保険+自転車総合保険]

学校の  
休みの日でも

大切なお子さまを補償期間(保険期間)中、**1日24時間補償します**

ただし、一部の補償は24時間補償ではありません。

- 全プラン、学校より貸与されたタブレットの破損も補償されます。
- 全プラン福井県自転車条例に対応しております。

※随時中途加入を受け付けております。

### 自転車事故等による損害賠償責任も 国内無制限補償! (S-SWプラン)

示談交渉サービス\*付き!

\*示談交渉を行う場合は、被保険者および被害者の同意が必要です。国内のみのサービスとなります。

小学5年男子児童の自転車衝突で母親に  
約9,520万円の賠償命令(神戸地裁判決)

### 傷害(ケガ)補償

学校生活だけでなく、塾や習い事など、  
学校が休みの日も含めて24時間補償します。

※医療費助成などによる、自己負担の有無に関わらず、  
お支払いの対象となります。

### トラブル被害対応補償

いじめ、SNS上での誹謗中傷、ストーカーなどの被害を受けた際、弁護士・臨床心理士への相談費用や、  
解決のための対策費用を補償します。



学校で嫌がらせに遭い、  
カウンセリングを受け、  
弁護士へ解決方法を相談した。



SNSでの悪口の書き込みを削除させるため、  
弁護士に依頼した。



つきまとい被害に遭い、  
警察に相談し防犯対策をした。

プランによって補償項目が異なる場合がありますので、詳しくはパンフレットのプラン表をご確認ください。

※割引率について:パンフレットで案内している保険商品の算出基準である保険料(加入者数20名未満の団体における保険料)に対しての割合を示します。  
適用される割引率は前年度の加入者数等に応じて決定します。

引受保険会社：AIG損害保険株式会社